

富田さんから本格的な指導を!

●「音楽の都ウィーンからの贈り物・出前講座」

今年の「音楽の都ウィーンからの贈り物」事業では、声楽家の富田千種さんが学校等に出向いて発声指導や世界レベルの音楽について講演をする「出前講座」を組み込んでいます。今日の午後は、第1校目の「出前講座」としてコンサート会場であった、県立春日部高等学校高校合唱部の皆さんへの声楽指導でした。同行させていただいたので、その記録を。



13時45分、部員26名の合唱部の皆さんと視聴覚室にて会いました。皆さんは13時から発声練習をしていたそうです。富田さんから普段の練習についての質問がでると「最初は息を飛ばす練習から始めます」とのことでした。それを実演…。

* *

1. 腹式呼吸を学ぶ

富田さんは「歌の基本は呼吸ですから、皆さんの練習始めに呼吸法から始めることは良いのですが、皆さんはまだ横隔膜を上手に使っていませんね。肺はただの袋ですので、その袋を押ししたり引っ張ったりするのが横隔膜です。お腹を膨らませたり引っ込めたりしながら横隔膜を上手く使うことで声をしっかりと出すことができます。これが腹式呼吸です。」とおっしゃって一人一人の呼吸を横隔膜の動きを見ながらチェックしていきます。次に、呼吸もワンパターンでなく、犬が激しく呼吸するようなパターンも取り入れることも提案しています。

「息を口の中まで出してきて止めておき、パッと吐きだして見ましょう。どうでしょうか、自然と息を吸い込みませんか。その時の呼吸は深く吸い込むことができますね。息をゆっくりと吸い吐き出すこと、息を一気に出して短く吸うことなど、呼吸法の練習もさまざまなやり方を行うことが大切です。」

* *

2. 発声練習で

14時、富田さんから「音を付けて見ましょう」と言われ、皆さんは「ア」で発声を始めました。ここで富田さんから「口の開け方は何通りありますか?」との質問が…。「母音ですからア・イ・ウ・エ・オの5つですね。アゴを開けたり閉めたりすることでア・イ・エは発音ができます。また、唇を明るく広げたり、暗く閉じることでウ・オが発音することができます。

同じアでも明るく、暗くというように、ウでも口を開けたり閉めたり、つまり母音5音に対してそれぞれ4つの発音ができるのです。声帯に優しく、緩急の組み合わせで気持ちの良い声を出せるのです。」と、素人の私でも、アゴの開け閉め、口の形で皆さんの音色が変わっていくことが理解できました。



「皆さんは26人で歌うのですから、大会に出ても音量では勝てません。しかし、音色で聴かせることができれば金賞も難しくはありません。一人一人がしっかりとした音色を聴かせてください。」

14時15分からは個人レッスンが始まり、3人に発声練習をしてもらおうと、緊張のせいか声ができません。その緊張を解きほぐしながらも口の形を意識させながらの指導が続きます。腕を使った息抜きの方法(息を上から下へ、下から上へ抜く)などの指導もあり、勘の良い皆さんの理解は早いのですね。

* *

3. 課題曲は校歌

14時50分からは約1時間に亘り校歌を課題曲として指導を行いました。変声期の途中にある男子にとってはレ・ミ・ファが入る曲は難しいそうで、の部分繰り返し練習になりました。

2時間強の練習でしたが、変わっていく皆さんの音色が分かりました。秋に再度のレッスンを富田さんにお願ひし、今日の出前講座を閉じました(°o°)。